

調査の概要

この報告書は、当財団が平成 11 年 3 月に発刊した「音に関する学術研究動向調査報告書 - 助成研究のその後と制度について -」の続編で第 2 報にあたるものである。

前回報告から 5 年が経過し、296 件に及ぶ研究助成申請テーマが寄せられ、48 名の新たな助成対象者が生まれた。そこで、前回報告と比較しながら、申請テーマの傾向は…、助成を受けた研究の流れは…、助成に対する意識はどう変わったか等々…明らかにすることが本報告書第 2 報の目的である。

この本文では前の報告書を“前回報告”と称し、図表において区切りの年度である H10 と H11 との間を下表の様に太線で区切っている。

14 回	15 回	16 回	17 回
H9	H10	H11	H12
…	…	…	…

また、平成 15 年 3 月に発刊した「音に関する研究動向調査 - 将来の課題と予測される研究テーマ -」も研究動向を把握する場合に随時参照している。こちらは本文では“課題と予測テーマ報告書”或いは単に“予測報告書”と称している。

いずれの報告書も <http://www.sound-zaidan.com> より全文配信されているので参照されたい。